(5) ストック

主要病害虫別防除方法

<table>
<tr><th>病害虫名
(病原体)</th><th>農薬によらない防除</th><th>農薬による防除</th></tr>
<tr><td rowspan="2">モザイク病
(TuMV,CMV)
（アブラムシ類）</td><td>①被害苗や株は直ちに取り除き、適切に処分する。
②育苗期には目合い1mm以下の防虫ネットなどにより、アブラムシ類の飛来を防ぐ。</td><td>①ウイルスを媒介するアブラムシ類を農薬で防除する。
（例）
アセタミプリド水溶剤、くん煙剤（モスピラン顆粒水溶剤、モスピランジェット）
イミダクロプリド水和剤（アドマイヤーフロアブル）
ピメトロジン水和剤（チェス顆粒水和剤）
ピリフルキナゾン水和剤（コルト顆粒水和剤）</td></tr>
<tr><td colspan="2">【参考事項】
アカザ科、アブラナ科、キク科、マメ科植物にも発生し、アブラムシ類により伝染する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">菌核病
(Sclerotinia)</td><td>①過繁茂にならないようにするとともに、通風、換気、排水を良くし、過湿を避ける。
②発病株は早めに抜き取り、適切に処分する。</td><td>①発病初期から農薬を散布する。
（例）
イミノクタジン酢酸塩・ポリオキシン水和剤（ポリベリン水和剤）
チオファネートメチル水和剤（トップジンMゾル、トップジンM水和剤）</td></tr>
<tr><td colspan="2">【参考事項】
被害株にできた菌核が落ちて伝染源になる。菌核は、土壌中で2～3年生存する。キャベツ、ナス、レタスなど、各種作物を侵す。発病の適温は15～20℃である。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">炭疽病
(Colletotrichum)</td><td>①発病ほ場の残さはほ場から持ち出し、適切に処分する。
②頭上からの灌水を避ける。</td><td>①発病初期から農薬を散布する。
（例）
チラウム水和剤（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）</td></tr>
<tr><td colspan="2">【参考事項】
被害茎葉上に形成された胞子が雨滴や灌水の飛沫で伝染する。発病の適温は20～30℃である。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">コナガ</td><td>①育苗期から目合い１mm以下の防虫ネットで被覆する。
②周辺のアブラナ科野菜での発生に注意する。
③ほ場周辺の除草を行う。</td><td>①定植時に粒剤を全面土壌混和又は株元散布する。
（例）
カルボスルファン粒剤（ガゼット粒剤）
ベンフラカルブ粒剤（オンコル粒剤５）
②発生初期から農薬を散布する。
（例）
エマメクチン安息香酸塩乳剤（アファーム乳剤）
クロルフェナピル水和剤（コテツフロアブル）
レピメクチン乳剤（アニキ乳剤）
③微生物農薬を利用する（微生物農薬の項参照）。
（例）
BT水和剤（エスマルクDF、ゼンターリ顆粒水和剤など）</td></tr>
<tr><td colspan="2">【参考事項】
特に秋の幼虫の被害に注意する。
散布剤は葉裏にも薬液を十分散布する。
抵抗性系統を発生させるおそれがあるので、同一系統農薬の連用は避け、ローテーション防除に努める。</td></tr>
</table>